

## 武道館建設（多目的ホール）プロジェクト

チルドレン・ホープ、ウガンダ事務所代表石原藤彦氏（極真カラテ武段）は、2003年5月より空手を通じて、ウガンダ人の少年、少女、青年、そして壮年に日本の武道精神を伝えています。金銭的な援助、物資的な援助は、多くの国、団体が行っていますが、その弊害として、貰い慣れすぎている現実があります。中古衣料を貧しい子供たちに渡しても、その服は、ウガンダ最大のオウイノマーケットで売られているのが現実です。売ったお金で生活できているのでありますが、服は、二束三文で買い取られてしまいます。果たしてドナーはその事を知っているのでしょうか？与えるだけの援助では、アフリカ人は、自立はできません。インターネットの普及により、グローバル化の悪い面を学び、何でも手に入ると勘違いをし、簡単にお金を手に入れるために、強盗、殺人、窃盗を簡単にしてしまいます。あらゆる階層で墮落の様相は深く、つい先ごろまで我々日本人が失っていた人間性の良さを持っていたアフリカ人が墮落していく現実を見るにつけ、一体、開発、進歩、援助とは何なのかと考えさせられてしまいます。ウガンダのムセヴェニ大統領は、日本の発展を探り、武道が関わっている事に気づきました。ウガンダの父と呼ばれた柏田雄一氏も今アフリカに必要とされているのは、武道、サムライ・スピリットだとムセヴェニ大統領に進言しました。武道館建設プロジェクトは、日本人の血に流れているサムライ・スピリットを武道を通じて伝道するには、最適なものであると感じる次第です。ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

### 概要

日本人師範の指導のもと、「日本の顔」が見える空手普及を行うためには、継続的に空手指導、及び空手精神の伝授を行うことができる本格的な武道館の建設が必要である。本案件では、カンパラ市内における団体所有の土地に武道館を建設し、空手を含むその他の日本武道（柔道、柔術、合気道、剣道）の普及・指導を行う。空手に関してはウガンダセンター代表石原藤彦が指導を行い、その他の武道に関しては、チルドレン・ホープ・ウガンダセンターを通して、武道家の派遣を行う予定である。また、武道館が設立されれば、国際空手道連盟極真会の支部として認定される可能性が高く、そうなれば、極真空手本部からの支援も期待される。

この武道館は、道場（ホール）1室、図書・視聴覚室1室、受付・事務所1室、更衣室2室、ウェイト・トレーニング室1室、用具室1室から構成される。道場では、具体的に、一般クラス（週3回）、大人クラス（週3回）、子供クラス（週3回）、上級クラス（週2回）、選手育成クラス（週2回）、黒帯研究会（週1回）を行う予定である。また、図書・視聴覚室には、日本武道に対する理解を深めるための書籍や視聴覚資料を保存し、武道館利用者に対して公開する。用具室には、ミット類、グローブ、サポーター、マットを保管する予定である。武道館に必要な用具や家具は、団体が既に所有している。

チルドレン・ホープ・ウガンダセンターは、本武道館が完成した暁には、年1回のオープン・ト

ーナメント、年4回の交流試合、年1～2回の昇級審査会を行う予定である。また、極真支部として登録されれば、その他アフリカに支部を置く南アフリカ、チュニジア、モロッコとの交流試合やサマー・キャンプを行い、また、4年に一度の国際空手道連盟極真会の世界大会（日本で開催）に出場することが可能となる。更に、UKFと連携し、交流試合等を行うことにより、ウガンダ全体の空手レベルが向上することが期待されている。

また、長年、在ウガンダ日本人会副会長、在留邦人の「空手同好会」の会長、を石原藤彦が担っていることもあり、本案件において、今後、青年海外協力隊を含む邦人社会との連携も期待される。

## 使用目的

### 武道館（多目的ホール）

ウガンダ国民に対し、正当な日本武道を普及・指導し、日本に対する理解を深めることを目的としている。武道館の図書・視聴覚室には、日本武道に対する理解を深めるための書籍や視聴覚資料を整備し、武道館利用者に対して公開するとともに、用具室には、ミット類、グローブ、サポーター、マットを保管する予定である。道場では、今後、夏休みなどを利用して、空手、柔道、合気道、柔術、剣道の講師を日本から派遣する予定。多目的ホールとしては、地域の住民に使ってもらえる公民館的な役割にする。

## 事務所棟

ウガンダセンターの事務所、ボランティアさんの宿泊施設、民芸品工房、識字教育クラスの教室として使用する予定。

### 第1期工事（事務所棟、事務所棟、武道館基礎、敷地整備まで）

期間：2011年12月13日～4月末日

総工費：239,644,556UGX (\$97,814 \$1=2,450UGX 2011年12月7日現在)

### 第2期工事（武道館建築）

期間：未定

総工費：251,000,000UGX (\$86,400 \$1=2,500UGX 2012年4月7日現在)

武道館は、道場（ホール）1室、図書・視聴覚室1室、受付・事務所1室、更衣室2室、ウェイト・トレーニング室1室、用具室1室から構成される。

## ウガンダセンターの主な活動

同センターは、2003年頃から当国において社会奉仕や空手指導等の活動をはじめ、2005年に現地NGOとして正式登録された。同団体の設立目的は、社会奉仕であり、活動としては主に空手教

室や日本語教室を中心とする日本文化振興、孤児や貧困層に対する教育・保健分野での支援を行っている。活動の中心となっているのは日本人スタッフであり、現地に根付いた「日本の顔」の見える支援を行っている。

現在、青年海外協力隊2名（極真空手メンバー）、及び大使館員1名、JICA職員数名が同団体に空手指導を受けており、本案件において、今後、協力隊を含む邦人社会との連携も期待される。

裨益人口は空手指導を受ける350名、及びその他の武道（柔道、柔術、合気道、剣道）の受講予定者約150名である。また、この道場との交流を通じて、ウガンダにおけるその他の空手家約450名が空手レベルの向上の機会を得ることが出来る。

### ウガンダでの背景：

空手（剛柔流）は、ウガンダに1970年代に日本人師範によって初めて導入された。しかしながら、アミン政権時代に、治安上の問題のために、同氏が国外脱出を余儀なくされて以降、ウガンダ人のオクルト氏が後継者となり、ウガンダにおける空手（剛柔流）の普及に努めてきたが、1985年にオクルト氏が他界して以来、剛柔流空手の普及者が事実上不在となった。他方で、当時国外避難していたウガンダ人師範オピオ氏が1981年に帰国して以来、松涛館流空手が当国では主流となりつつあったが、2005年には剛柔流、松涛館流、和道流の空手家らが集まり、流派に関係なくウガンダにおける空手普及を目的としたウガンダ空手連盟（UKF）を設立した。UKFによると、現在の当国の空手人口は約700名で、18の空手団体（うち中高等学校2団体、大学4団体）に所属しているという。

ウガンダの空手界においては、UKFが主体となって、アフリカ近隣諸国との国際試合や交流を行っているが、慢性的な資金不足が問題で、空手の本場日本との繋がりに乏しく、結果的にウガンダ全体の空手レベルはなかなか向上していないのが現状である。

他方で、2003年に石原藤彦が同地にチルドレン・ホープ・ウガンダセンターを設立し、当国で唯一の日本人師範として、空手の普及に努めてきている。数年前まで同NGOは、カンパラ市内で道場を借りて、週7日、1回につき約50名を対象に空手指導を行っており、合計約350名が会員として登録していた。しかし、現在では継続的に空手活動を行えるように、受講者にとってアクセスの良い場所に土地を購入し、自前の道場の建設を計画している。その間、道場の賃貸料分を道場建設のための資金にまわすため、以前のように道場を借りずに、主に自宅を利用して空手指導を行っている。このように、場所の大きさに限界があるため、現在では1回の受講者数を制限している。具体的には、現在、週2回、約30名を対象に自宅で指導を行っている他、カンパラ市内のスポーツクラブにて週3回、初心者向けの空手教室を開催し、毎回約15名程度のウガンダ人が参加し、日本文化に慣れ親しんでいる。その他プライベート教室には、週1回3名、週2回2名が参加している。また、同団体は、2005年より6名のウガンダ人を日本に招待し、武道や芸術等の研修を行ってきた。